

# 四季彩便り

2011・初夏

発行人 光が丘 四季彩堂 裕子  
サニール 漢方酒見  
(092)927-2693

## 立夏



ようやく風薫る初夏がやって来ましたね。

ツバメが飛び交い、麦畑の上空にヒバリがさえずり、そして目には青葉。

目を疑うような東日本大震災の惨状に、私たちの心は凍りつき、春の到来さえ忘れてしまうほどの衝撃を受けました。

「当たり前」の日常が突然断ち切られて初めて、「当たり前であること」の幸せを思い知らされました。

被災された方たちが、もう一度当たり前の幸せを取り戻せるよう、一過性ではなく、地道に長期的な支援をしていかねばならないと思います。

当店のブログ「筑紫漢方つれづれ日記」でもご紹介していますように、私の古くからの友人が呼びかけている「TSUNAMI募金」に、当店も参加しています。

被災地の一日も早い復興を目指して支え合おう日本！



## 四季の話題

卒寿を来年にひかえる老母は、数年前から眼科を受診しています。

白内障の手術を勧められています、なかなか決心が付きません。

今のところメガネなしでも新聞が読めているからです。

以前は母が受診している間、私は外で待つていたのですが、最近は診察室に一緒に入るようにしています。

そして判ったのは、母は近視で左右の視力にかなりの差があるということでした。

昨年の測定では〇・二と〇・八、それが今年四月には〇・五と〇・八と、片方の視力が明らかに改善しています。

「かあさん、目が良くなってる。ビックリ。こりゃコギクをしっかりとりのまなくちゃ！」とは測定直後の母の言。

これには母だけでなく私も驚きました。



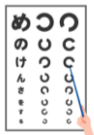
コギクとは**杞菊地黄丸**のこと。

まさに中成薬の高い品質と継続服用によって奇跡的ともいえる効果が現れたのです。

中国医学では目と肝、耳と腎は密接な関連があると考えられています。

老化が進むと、目は老眼や白内障に、耳は遠くになりがちですね。

杞菊地黄丸は肝と腎を養うことにより、目や耳だけでなく、全身の若さを保つ、いわばアンチエイジング漢方薬です。



## 折々の薬草

### アカメガシワ

(生薬名 野梧桐)

山野にふつうに生え、高さ5〜10mほどになるトウダイグサ科の落葉小高木です。

名前の由来は、春先に伸びる若芽が赤く、葉が柏のように広いことによります。

昔は神前のお供え物をこの葉にのせたことから「御菜葉」「菜盛葉」などとも呼ばれたようです。

また、だんごをこの葉に包んで蒸すなど、柏の葉に似た使い方をしました。

雌雄異株で、開花期は六月〜七月、結実期は九月ごろです。

薬用には樹皮や茎葉を用います。

消炎作用があり、民間療法では胃潰瘍や十二指腸潰瘍に煎じて服用したり、痔や腫れものには煎じ汁を飲むだけでなく患部に塗布すると効果があります。

あせもや湿疹・かぶれ・かゆみなどにも乾燥した葉を煎じて服用するか、煎じ液で患部を洗う、あるいは浴剤として用います。

また、赤色の残っている新芽を天ぷらにしたり、茹でて和え物や炒めものにして食べることもできます。

さあ、初夏の野にちょっと目を向けてみてください。

アカメガシワはあなたのすぐそばで枝を伸ばし、赤い新芽が空を見上げていますよ。

